<table>
<tr><td>出張目的</td><td colspan="4">介護保険事業の地域密着型サービスの現状把握等</td></tr>
<tr><td>出 張 先</td><td colspan="4">あゆみの家（認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護）
亀岡あゆみデイサービスセンター</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出張経過</td><td>出発地･日時</td><td>市庁舎
１月２３日　午前9時５５分</td><td>到着地･日時</td><td>あゆみ
１月２３日　午前１０時１０分</td></tr>
<tr><td>帰着日時</td><td>１月２３日　正午</td><td>滞在日数</td><td></td></tr>
<tr><td>経路及び利用交通機関</td><td colspan="3">市庁舎→あゆみ（視察）→市庁舎　公用車</td></tr>
<tr><td colspan="5">用務経過</td></tr>
<tr><td colspan="5">　介護保険事業の地域密着型サービスの現状把握等を目的にあゆみの家（認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護）、亀岡あゆみデイサービスセンターを視察しました。施設関係者から説明を受け質疑等を行いました。</td></tr>
<tr><td colspan="5">　参加者：環境厚生常任委員会</td></tr>
<tr><td colspan="5">　　眞継委員長、酒井副委員長、苗村委員、山本委員、竹田委員、吉田委員、中澤委員、</td></tr>
<tr><td colspan="5">　　立花委員、明田委員、事務局随行八木</td></tr>
<tr><td colspan="5">　　計　１０人</td></tr>
<tr><td>そ の 他</td><td colspan="4">別紙のとおり</td></tr>
<tr><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>添付書類</td><td colspan="4">説明資料等（添付のとおり）</td></tr>
<tr><td>備　　考</td><td colspan="4">１．その他欄には、意見、感想等を記載すること（必要に応じ適宜、別紙の添付も可）。
２．送付書類は項目別に記載の上、本復命書に綴込み提出のこと。
　　但し、事務処理上差支えがあれば提示するにとどめてよい。</td></tr>
</table>

視　察　概　要

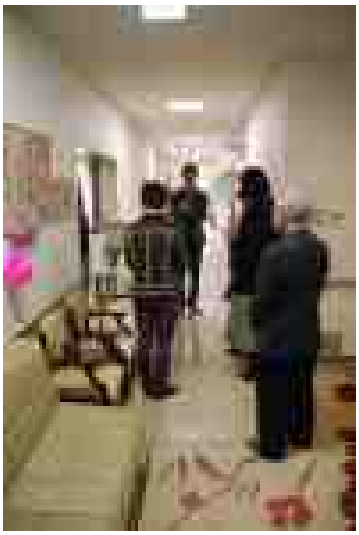
◎平成２５年１月２３日（水曜日）午前１０時１５分～午前１１時４５分

社会福祉法人　倣襄会　湯浅理事長あいさつ

眞継委員長あいさつ

≪施設見学≫
〇あゆみの家（認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護）竹本管理者説明

○亀岡あゆみデイサービスセンター　荻原施設長説明



≪事業説明≫
亀岡市地域包括支援センター　あゆみ　松本センター長
別紙資料

≪質疑≫
＜苗村委員＞
介護職員の勤務年数、給与水準はどうか。厳しいと認識しているが。
＜荻原施設長＞
一昨年開設したあゆみの家の職員を除くと約５年である。全国の平均が３年とされているので離職率は低いと考えている。
給与は処遇改善加算されたことにより一定上昇した。事業所としては高いかもしれないが、介護業界全体は他の業界より低いとされている。休日や夜間の勤務等を鑑みると同様の勤務形態の他職種より低水準であると考える。
年間の休日が少ない職場であるので子育て、家庭と仕事の両立に困難を感じる場合も多い。
夜勤等の対応も含めて、利用者の状況により変に応ずる必要等もあり休憩時間の確保についても、現場に応じて臨機応変な対応が必要とされるものである。

＜中澤委員＞
施設等には定数が定められていることから待機者が相当数あると推測するが。
＜荻原施設長＞
昨年市内で特別養護老人ホーム等の増床整備が進んだことにより、在宅サービス等の利用希望者もスライド式に減少した。当事業所だけでなく市内他の事業所も同様であろう。グループホームには待機者はある。
＜中澤委員＞
入所希望者が複数あった場合にどのように選定しているのか。
＜荻原施設長＞
家庭環境や緊急性を考慮して判断している。
＜中澤委員＞
利用者の家族との関係はどうか。
＜荻原施設長＞
小規模多機能型居宅介護であれば家族と直接話を出来る機会も多い。デイサービスでは昼間独居の状況もあり、家族と直接話をする機会を多く持つことは難しい。
＜松本センター長＞
あゆみの家は家族支援の観点から事業を展開している。家族のリフレッシュや介護技術、知識の提供等も含めて、職員が力を発揮していこうとしている。
＜竹本管理者＞
小規模多機能型居宅介護にケアマネージャーの相談業務が位置付けられている。ケアマネが現場にも相談にも応じているので家族との相談等も含めて包括的、密接に対応できていると考える。
＜中澤委員＞
報道等で介護する側、家族の困難等が指摘されていた。
＜竹本管理者＞
サービス利用者の状況は日によって変化する。利用者の状況の変化を職員、ケアマネが常に把握しているので、状況にあわせて適切なサービスを提供する。高齢者が住みなれた地域で自分の力を生かし、自分らしく生活できる手助けをしていると考えている。
＜荻原施設長＞
議員指摘の家族の課題は最近特に感じていることである。

酒井副委員長あいさつ